



# ほんきで 地域福祉

## 調査結果から



2024年6月からネット会員の皆さんを中心に声掛けで集めてくださった、アンケート、ヒアリング調査のご協力ありがとうございました。

だれもが願う、年をとっても地域で安心して暮らしていきたい。安心して子育てをしたい。

5年後、10年後を見据えて、考えてみましょう。難しく考えなくても、案外気楽にこんなことができるがたくさん寄り集まってきたら、思いがけない楽しい地域になっていくかもしれません。今あるお仲間だけでなく、一人一人の思いが生かされ、もっと楽しい地域になると思います。そんな思いをより集めましょう。それでは、具体的にどんなことができそう。今回の調査から様々な視点が見えてきました。



寄居町の子育て世代の皆さんに聞きました。

今一番大変に感じている事は？

- 保育料、給食費、中学校での部活にかかる費用など、経済面の事。
- 習い事等の送迎。
- 子供たちがスマホ、タブレットを多用する事等。
- 近い将来に対する不安は受験です。

## 望むことは？



- 給食費の無償化。
- 子供たちがより良く成長する為に就学に係る経費をできるだけ削減してほしい。例えば、ランドセル、画一バッグをやめて欲しい。
- 稽古・習い事等もっと身に着けられる仕組みを、例えば学童で色々な経験を出来るようにするなど。
- 子供たちが学校教育でタブレットを使用するようになった事で文字を書いたり外遊びが減るといった良くない影響が出ている。



## 全般で今一番不安に感じていることは？

- 世代を問わず経済面の事が挙げられました。
- さらに、世代が上がるほど健康面での不安の声が聞こえました
- 家の保守管理が大変。もっと修繕に幅疲労女性に仕組みが欲しい。
- 自動車の運転が出来なくなった時の不便さ。町のデマンド交通では解決できない。
- 地球環境破壊による農業等に対する影響や、気候危機への不安。
- デジタル化がすすむ事の懸念。

## 現実に困っている事

- 介護認定は調査員によって大きく差がでるし、介護度が下がるのは納得がいかない
- 庭や家の管理、動物が入り込んでどうしてよいかわからない。
- 家が老朽化して傷んでいるが支援があったらよい
- バスの運行、移動販売、訪問医療の整備
- 困りごとを相談できる窓口が欲しい。
- デマンドタクシーを簡単利用できるよう改善
- 地域社会全体が老朽化したら脆弱な町政では不安、若者を都会から呼び込み町を活性化する必要がある。
- 地域の衰退化が心配。
- その他環境問題。年金、健康など。健康面で動きが取れなくなった時や一人になった場合の事、災害発生、少子高齢化による支え手の減少。



## こんな仕組みあったらいいね

- 空家、空き地を行政と地元企業のコラボで活用法を考えてほしい。
- 町内外問わず人が利用できる施設を作る。
- バスの運行、移動販売、訪問医療を整備してほしい。
- 出来るだけ自力で生活したいが自分が動けなくなった時が不安。深谷本庄方面にバスが出ているが利用者が少ない。町内循環バスにして小型化し回数を増やすとか。
- 家が空家になった時、その処分や後に残さない方法はないか
- 車イス通院対応の業者数が少ない、社協にリフト車があるがドライバー未確保。
- 地域内のコミュニケーションを良くし隣人等助け合い地域活動を活発にする。
- タクシーの乗り合わせは気を遣うし制限が多い。コミュニティバスを走らせるとよい。
- 遊休農地を活用し『農』を大切にする暮らしを若者に広めていく仕組みが大切。
- 地域内のコミュニケーションを良くし隣人等助け合い地域活動を活発にする。

その他、生身の声が色々寄せられました。回答内にもありましたが、行政だけに任せておいても不安は解消されません。すべてがお金で換算される社会となっていますが、今こそ、地域の助け合い、一人一人が自発的にかかわる私発の福祉の取り組みが必要と感じました。

そして、福祉観の転換が必要です。「行政任せ」「自己完結」ではなく「地域福祉は、みんなで作るもの」として地域で主体的にかかわりながら、自分の生きがいともなれる地域の幸せを目指していくことが、安心につながっていくのではないのでしょうか。



## 議員クォータ制の導入を

最近では選挙のたびに思う。投票したい候補者がいない時、せめて女性の候補者を応援したいと思ってもかなわない。人口の半数は女性なのに何故女性の立候補者がこんなにも少ないのだろう。

江戸幕府 250 年から第二次世界大戦後まで政治は男性達のものであり女性には参政権も無かった。

女性に政治は無理と言われたりもするが、婦人参政権が認められて約 80 年。けれど議場に見える女性議員のなんと少ないことか。変わらぬ顔ぶれのお偉方が本気で政治改革を行うというのなら、女性議員を増やして欲しいと切に乞いたい。

そんな時に聞いたのが議員クォータ制というもの。

2020 年内閣府男女共同参画局の報告では世界 118 か国・地域で導入されている制度。

台湾ではもう 30 年近く前から議員クォータ制(人数割当制)が導入されていた。実力不足の女性議員を当選させるとの批判的な声もある中、制度によらず政治的な力を培った女性議員たちは支持者を増やしていった。密室に加わりにくい女性議員が増えることで、議会での議論が活発化し政治の質や透明性が向上する利点もあって、風通しが良いらしい。女性議員の割合は 2022 年の台湾統一地方選ではなんと 37% を超えたという。

大変な苦労もあったと思うが、ここまで当選できる力をつけた女性たちの頑張りは凄い！

こんな近くに良いお手本があるのだから是非日本でも導入したら良いのに。

### 女性議員が少なすぎる

日本の候補者男女均等法は罰則がなく実効性に乏しいとは、現職男性議員に優しい法律である。

そんな法律があったことすら知らない無知な有権者がここにいる。だって女性候補者が少なすぎる。

女性たちは多岐に渡って忙しい、それでも現状を変えようと行動する女性たちは増えている。

そんな彼女たちが議会に参加できる機会が欲しいし、ぜひ送り出したいと思う。

韓国でも議員クォータ制が導入されたが、日本はいつ

になるのだろう。

クォータ制、そして小選挙区では候補者が少ないから中選挙区にして選択肢が増えたら嬉しいのに、などと勝手なことを考える。

2024.11 Y.M.



## ひとつと言わせて

この原稿を書いている今日は 10 月 22 日。3 日前の 19 日の最高気温 26.7℃ を最後に今年の暑く長い夏が終わりました(多分。。。そう願う)。もう何年も前から暑さが厳しい夏が続いていますが、今年はまだ一段ギアが上がった感じでしたね。本州は確か温帯のはず。でも今年、私は「もう、亜熱帯に近いんじゃない。」って、暑さとゲリラ雷雨に抗う気持ちを捨てることにしました ww。

そして、仕事柄、時々、気象庁の過去の気象データを見る事があるので、気温の一部だけですが書き出してみました。ちなみに観測点の寄居はカタクリ体育館の敷地内にあります。

夏日(25℃以上) 真夏日(30℃以上) 猛暑日(35℃以上)

7月 5日 7日 16日 (うち 36.5℃越えが11日)

8月 0日 18日 13日 (うち 36.5℃越えが5日)

9月 9日 11日 5日

10月 8日 1日

個人手的に 36.5℃以上の体温超えの日を超猛暑日と呼んでいます、それを含む猛暑日は合計で 29 日間もありました。仕事で野外の作業をするたびに、軽く

頭痛がしていたわけですね。一度なると夏中そんな感じですよ。

7月29日にこの夏の最高気温39.6℃が出て、これは寄居の観測史上で2位でした。次は8月17日の38.9℃。

また8月中はゲリラ雷雨に襲われることが多く、しょっちゅうスマホのレーダーと通知をみていました。1時間あたりの最大降水量が特に多かった日は、7日が41mm、19日が29.5mm、そして24日は65mm！！、29日が30mmでした。

では、束の間かもしれない秋を楽しみながら、夏の疲れをとりましょうか。。。皆様もどうぞご自愛くださいませ。

KY



●11月16日(土)

●時間: 10時~12時

●場所: 男衾コミセン会議室 A

## ネット会員募集

毎日の暮らしの中で、感じていること、困っていることなど皆で話すことからスタートです。私発が原点です。安心して暮らせる地域を私たちの手で。ぜひ、お仲間になってください。

問合せ：大北（080-5933-7154）

※ショートメールでもOKです。



## 編集後記

猛暑の8月、日本のウーマンリブの草分けとして活躍されてきた田中美津さんが亡くなった。また一つの時代が終わった。田中さんのリブ運動は、男女平等の権利獲得運動ではなく、女自身の意識変革を訴えてきた。私の世代では大きくなずける。男に媚びる、前進する女の足を引っ張る、女の敵は女といった時代があった。その昔田中さんの「いのちのイメージトレーニング」(新潮文庫)にとてつもなく励まされた。何をやっても思うようにいかない、自分に自信が持てない、毎日が予期不安で押しつぶされそうといった思いに誰もがぶつかったことがあると思う。そんなときに美津さんはこう語りかけてくれた。「かわいそうなたしの物語は、私からワクワクを奪い、生命力を低下させる。不幸な私に囚われてしまった自分に、私に起こることはすべて〇。幸せな自分をイメージで捏造する。洗脳することで、悲しみの底から脱却できる。」そんな術を、深い呼吸や腰湯で温めるなど、具体的な対処法を通して教えてくれた。何より心の在り方が一番。失敗しても、「こけてもあぜ道、落ちて田んぼ」と世界が終わってしまうほどの深刻さではないこと。誰も死なないと自分に言い聞かせることができる柔らかさを教えてくれた。現実は今だけ。今を生きることも。

大北秀子

## information お知らせ

ヒアリング調査集計から「この地域で私たちに今できることは？ 今後必要なことは？」など話し合っていきたいと思います。

誰でもが、年齢を重ねます。常時健康でいられる保証はありません。災害も大きな不安です。不安だらけの中でも、「こんなことができたらいいいね。こんな仕組み欲しいね」と前向きな取り組みを目指したいと思えます。

まずは、おしゃべりしましょう。何でもありです。難しい話はありません。ご自分のこと、友人のこと、隣人のこと、何でも情報交換しましょう。ご都合のつく時間帯だけでもOKです。

ぜひご参加ください。